



第146号

宮城県亶理農業改良普及センター

〒989-2301

亶理郡亶理町逢隈中泉字本木9

TEL 0223-34-1141

FAX 0223-34-1143

E-mail wrnokai@pref.miyagi.lg.jp

<https://www.pref.miyagi.jp/site/wrnk/>



さつまいもの収穫作業

「リスクへの備え」

宮城県亶理農業改良普及センター 総括次長 門間豊資

近年、令和元年東日本台風(台風第19号)による大きな災害、令和2年から続く新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の影響による農産物価格の低迷、さらに令和3年には米価下落等もあり、農業にとって厳しい状況が続いてきました。

本年、亶理普及センター管内では大きな気象災害もなく、新型コロナウイルス感染症拡大の影響も徐々に緩和され、さらには昨年大幅に下落した米の概算金も、本年は主食用米の主要品種で1,000円以上引き上げられました。

しかしながら、本年2月に発生したロシアのウクライナ侵攻に、最近の円安等も重なった結果、農業資材費や動力光熱費等が高騰しており、しかもこれが長期にわたるといった予測も出されています。例えば、管内を代表する園芸作物のいちご経営におけ

る変動費のうち、肥料費・農薬費・動力光熱費は4割を超えるといった試算もあり、資材費等の高騰がこのまま続けば、更に深刻な影響が出ることが懸念されます。

このようなことから、県では、農業者の方々の営農継続を支援するため、本年7月から県庁及び各普及センターに「資材価格高騰等に伴う営農相談窓口」を設置したほか、新たに肥料高騰や省エネ化への補助事業の実施のほか、低利資金の融資等も行っております。

毎年のように発生する農業経営上のリスクヘッジ(危険回避)は、今や必要不可欠となっていることから、普及センターでは関係機関と連携を密にしながら、農業者の経営安定に努めてまいります。

地域
の話題

次代を担ういちご生産者を対象とした育苗勉強会を開催しました

7月27日に若手のいちご生産者の育苗技術向上、生産者間の交流を目的に、JAみやぎ亘理 亘理・山元いちご選果場において、いちご育苗勉強会を開催しました。参加者は、管内若手生産者を中心に個人、法人含めて36人の出席がありました。講師に農業・園芸総合研究所野菜部イチゴチームの研究員を招き、育苗時のポイント、肥培管理、病害虫管理についての講義がありました。亘理普及センターからは、管内の育苗での優良事例の紹介、病害虫防除の際に葉害を出さない防除時間、炭疽病を発生させない防除間隔について紹介しました。新型コロナウイルス感染対策で時間の制約もあり、勉強会内での情報交換は実施できませんでしたが、参加者は勉強会の前後で積極的に情報交換をしていました。

令和4年度はJAみやぎ亘理と協力し、対象者を含めた部会員向けの育苗講習会を2回、今回の勉強会を含めて計3回の講習会を開催し、育苗技術向上に向けた活動を実施しています。

今後は、定植後の温度、二酸化炭素濃度、養液管理などを最適化する環境制御技術習得に向けた勉強会及び講習会を開催し、いちごの単収向上に繋げてまいります。



7月27日いちご育苗勉強会



8月25日いちご定植前講習会

地域
の話題

鳥の海ふれあい市場で「シャインマスカット」販売会を開催しました

亘理普及センターでは、ぶどう「シャインマスカット」栽培技術の品質向上と省力化及び産地としてのイメージ定着を目的に、プロジェクト活動に取り組んでいます。

令和4年9月29日、亘理町内にある直売所「鳥の海ふれあい市場」を会場にして、亘理町の「シャインマスカット」生産者3戸による合同販売会を開催しました。当日は多くのお客様に会場いただき、約130房の「シャインマスカット」が2時間で完売しました。

普及センターでは、今後も技術支援や産地のPR等により、当地域の「シャインマスカット」の普及拡大を支援してまいります。



販売会の様子



販売されたシャインマスカット

地域
の話題

カーネーションのIPM・産地表示販売検討会を開催しました

名取市花卉生産組合のカーネーション生産者は、化学合成農薬だけに頼らず天敵を活用する等、様々な技術を併用して病害虫の発生を抑制するIPM（総合的病害虫雑草管理）と、消費者が産地名を認識して切り花を購入することができるよう、販売段階で産地名を表示する産地表示販売の実証に取り組んでいます。

亘理普及センターでは、令和4年10月26日に名取市高柳集会所等でカーネーションIPM・産地表示販売検討会を開催し、各テーマの今年度上半期の実証結果を生産者と関係機関で共有するとともに、今後の取組に向けた意見交換を行いました。

IPMの現地検討では、化学合成農薬の使用回数の軽減を図ることができた実証結果を、取り組んだ生産者による説明も交えて振り返り、これまでの成果と課題を整理しました。

また、産地表示販売の検討では、支援を行った地元の関係機関からも産地PR活動の紹介や今後の取組に向けた提案もあり、地域内で連携して特産品を盛り上げていこうとする様子が見えられました。

地域への定着が期待されることから、普及センターでは今後もこの取組を支援してまいります。



検討会の様子



地域
の話題

巨理管内のさつまいもの生産振興について

巨理普及センター管内では、近年さつまいもの生産が増えつつあります。

山元町、巨理町内では東日本大震災後に設立した法人等によって、農地整備事業を実施した畑地で野菜の生産が盛んに行われています。その中でもさつまいもは令和4年度に約38ha栽培されています。震災前の県全体でのさつまいもの栽培面積は30haほどでした。元々は九州、四国を中心に生産されてきましたが、土壌病害の蔓延などにより産地が東日本に移行してきています。従来産地が縮小する一方、国内だけでなく海外への輸出需要も増えてきています。

急激に需要が増す中、各経営体の生産体制を確立し、安定した出荷、販売網の整理が必要とされています。また、品質が良い生産物を出荷するためには健全な苗の生産や、貯蔵性を高める技術の習得が求められています。普及センターでは、栽培から出荷までの技術の確立を図り、地域に定着した園芸品目となるよう支援してまいります。



栽培研修会



定植作業

地域
の話題

水田自動水管理システムWATARASを使用したスマート農業実証試験について

WATARAS（ワタラス）とは、**Water for Agriculture Remote Actuated System**を略した言葉で、水田の給排水をスマートフォンやパソコンで監視しながら、遠隔操作や自動で制御できる技術です。

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構）と農機メーカーが連携して開発したシステムで、給水口又は排水口に、通信、給排水及び水位と水温の計測を行う機器を設置することで、自動で水田の給排水を管理できます。

巨理町で、農研機構の実証試験経験のある大規模水田経営体が、令和4年度から株式会社クボタのWATARAS24基を、約1ha区画の水田計24haの給水口に設置し、大規模水田経営の実用化試験を県農村振興課や株式会社南東北クボタと連携し実施しています。

農研機構での試験結果では、WATARASの導入メリットについて、①労力軽減、②節水、③設定タイマー、④スケジュール化、⑤データ化を掲げており、特に水管理に要する労働時間は97%削減、用水量は約50%減少できたとしています。

大規模水田経営体において、水の見回りは多くの時間を費やす作業で、自動給水システムは早急に普及拡大が望まれる技術です。

今後、今回の試験について使用者の感想などをまとめ、問題点などを検討する予定です。

普及センターでは、今後もスマート農業の普及拡大を支援してまいります。



WATARASの設置状況

地域
の話題

農業大学校先進農業体験学習終了式が開催されました

9月5日から10月7日までの33日間、宮城県農業大学校1年生の先進農業体験学習が実施されました。巨理普及センター管内では、地元出身者を含む13人が先進的な農業経営を営む農業者や農業法人で研修しました。

10月7日の先進農業体験学習終了式では、表情が引き締まりたくましくなった姿が伺えました。大学校生から「丁寧に教えていただき、ありがとうございました。人と人との繋がりが大切なことを学びました。これからの自分の勉強に活かしたいです。」などのお礼の言葉がありました。

受け入れ先の方々からは「学校とは違う環境での研修で戸惑いもあったと思いますが、よく頑張りました。この経験を活かし目標に向かって頑張ってください。」など学生の頑張りに対する労いやこれからの活躍に対する励ましの言葉をいただきました。



終了式の様子



体験学習の様子

令和4年度 宮城県農林産物・花き品評会の結果報告

令和4年10月22日(土)～23日(日)にせんだい農業園芸センター(仙台市)で「宮城県農林産物・花き品評会」が開催され、亘理普及センター管内でも数多くの方が入賞しました。おめでとうございます。

受賞された方をはじめ、品評会に御協力いただいた皆様に改めてお礼申し上げます。

◇宮城県農林産物品評会

写真No.	部門	品目名	品種名	市町村	氏名(敬称略)	受賞
①	果実	りんご	シナノスイート	亘理町	片平 洋介	宮城県知事賞(1等)・農林水産省農産局長賞
②	野菜/果菜類	きゅうり	まりん	岩沼市	寒風澤農園	宮城県知事賞(1等)・農林水産省農産局長賞
③	野菜/果菜類	パプリカ	(赤)ナガノ	山元町	斎藤 一雄	宮城県知事賞(2等)・宮城県園芸協会会長理事賞
④	野菜/果菜類	パプリカ	(黄)ジョリット	山元町	斎藤 一雄	宮城県知事賞(3等)

◇宮城県花き品評会

写真No.	部門	品目名	品種名	市町村	氏名(敬称略)	受賞
⑤	花き	バラ	ジェラート	名取市	丹野こずえ	宮城県花と緑普及促進協議会会長賞(金賞)・農林水産大臣賞
⑥	花き	ひまわり	F1サンリッチマロンLD	名取市	丹野真知子	宮城県花と緑普及促進協議会会長賞(金賞) 宮城県花卉商業協同組合理事長賞
⑦	花き	トルコギキョウ	オーブレッド	名取市	三浦 智和	宮城県花と緑普及促進協議会会長賞(金賞) 仙台中央卸売市場花卉仲卸協同組合理事長賞 仙台生花株式会社代表取締役社長賞
⑧	花き	カーネーション	ピンクビジュア	名取市	三浦 智和	宮城県花と緑普及促進協議会会長賞(銀賞)
⑨	花き	スプレーぎく	セイメリタ	亘理町	小野 幸夫	宮城県花と緑普及促進協議会会長賞(銀賞)
⑩	花き	輪ぎく	精の一世	亘理町	木口 雅志	宮城県花と緑普及促進協議会会長賞(銀賞)



お知らせ

相談窓口を設置しています

「資材価格高騰等に伴う営農相談窓口」(令和4年7月1日～令和5年9月30日)

農業各種資材の高騰が続いており、農業経営への影響が懸念されるため、営農相談窓口を設置し、農業技術や融資制度等に関する相談に対応いたします。

- ・ 電話番号：0223-34-1141 (亘理農業改良普及センター地域農業班)
- ・ 受付時間：8:30～17:15 (土日、祝日を除く)

亘理地域における栽培技術情報について

亘理普及センターでは、水稻(稲作情報)、麦(麦作情報)、大豆(大豆情報)、いちご(普及センター通信)の栽培技術情報紙を発行しています。発行する頻度等は品目によって異なりますが、管内の栽培状況を踏まえた内容となっておりますので、御興味のある方は、亘理普及センターまで御連絡いただくか、亘理普及センターのホームページにも掲載している情報紙もありますので御覧ください。

ホームページアドレス <https://www.pref.miyagi.jp/site/wrnk/>